

「新型コロナウイルスの差別について」

6-1 松川 颯流

ぼくは新型コロナウイルスによる差別やそれ以外の差別もしてはいけないと思います。

ぼくはテレビでインタビューを受けている感染者を見たことがあります。その人は日常の中でコロナウイルスに気を付けていても感染してしまい、差別を受けているという内容のものでした。その人は「どうせ居酒屋に行ったのだろう。」「自業自得。」などの差別を受け気になっていました。差別をしている人達にはふだんから「居酒屋でクラスターが発生。」「新規感染者数四千人超え。」などといったニュースを受け感染者が悪い、というようなイメージが強く根づいてしまっているような印象を受けました。実際にぼくはこのニュースを知るまで「なんでみんな感染するのだ。」「その人が悪い。」などといったことを思っていました。

しかしそのことは、その人や他の人にとってとても苦しく、とても悲しいことだと気が付きました。ぼくはこのニュースを受け心が痛くなりました。そのとき「自分が感染してそんなひどいことを言われたらどうしよう。」といったことを思いました。前に母から言われた「自分がいやなことは他の人にもしてはいけない。」という言葉思い出し、まさにこのことだと思いました。他にもいろいろな理由で差別を受けている人がいっぱいいます。ぼくはそんな人を悪いと決めつけずに、よく考えて、いろんな理由を考えたいです。

ぼくは新型コロナウイルスに関する差別もしてはいけないし、それ以外の差別もしてはいけないと思います。どんな理由があってもその人のことやその人の家族を軽べつしたり、仲間外れにしたりすることはその人にとって一生残るようなトラウマになってしまうこともあります。ぼくはこのようなことを絶対にしないようにしていきたいと思いました。

「障害のある人に心開いて」

6-1 菅沼 瑞希

私は、「障害のある人に心開いて」をテーマにしました。このテーマにしようと思ったきっかけは、四年生のときに、アイマスクや音のなるボールを使って、障害のある人が日頃体験していることを学んだからです。

私は、障害のある人が体験したことが書かれている本を読んだことがあります。その本には、親が友達と遊ぶチャンスをつくるために、子供会やクラブに連れていってくれたけれど、先生は「面倒」だからと言い、見た目で判断し、才能を引き出してくれず、辛くて悲しい思いをした、と書かれていました。私は、絶望から立ち直った彼女はとてもすごいなと思いました。そして、そこから障害者差別をされている人がいたら、手を差し伸べてあげるという考えにたどりつきました。

私は、目が見えない人や耳が聞こえない人など障害がある人が歩いていたら、肩を貸してあげたり、声をかけてみたりしてみようと思いました。たとえ勇気が出なかったとしても、そばで見守っていようと思いました。また、障害のある人は、不自由な部分があるけれど、それは才能でありマイナスからプラスに変えることができます。だから、私たちは才能を引き出せるようにサポートをすることが大切だと思

います。障害者差別は、絶対にしてはいけないことです。差別をすることによって、悲しい思いをする人がいます。私は、困っている人がいたら、助けることができる人になりたいと思います。

「いじめのない温かい世界に」

6-2 飯野 莉子

「遊びだった。」「いじめを遊び感覚でした。」というニュースを聞いたことがあります。そのいじめられた本人は、自殺したそうです。私は実際にいじめられた事はありません。しかし、少し前にクラスの中で、みんなから避けられている人を見た事があります。

いじめは、いじめの人が「自己中心的な考え」もしくは「なんとなく」、相手のことを避けたり、悪口を言ったりすること。それが影響して、他の人にも避けられること。そして、相手の心がどんどんむしばまれていく事だと思います。

いじめをなくすためには、少しの事で人を責めない事や、いじめが起きている事を知ったら、先生や家族などに相談する事が大切だと思います。また、自分の言った言葉でどう思う人が出るのかを考え、自分がかもし誰かのことを傷つけてしまったら、すぐに謝るという事を、たくさんの人が心がけると良いと思います。

いじめの中でも悪口は、言った側の悪気がなくても、相手を悲しませてしまいます。悪口は言葉の暴力であり、相手の心を一生傷つける事です。私は、言葉の重みを知り、自分の言葉に気をつけて行動したいです。そして、誰かがいじめられていたり、困っていたりしていたら、「大丈夫だよ」「私はあなたの味方だよ」と言ってあげられる人になります。

「人間は支え合ってこそ人間だ」と私は思います。たくさんの人が優しい気持ちを持ち、みんなで支え合っていきたいです。そして世界中がいじめのない温かい世界になってほしいです。

「言葉のおもさ 友達の大切さ」

6-2 高橋 優奈

あなたは仲間はずれにされたり、いやなことを言われたりして心が傷ついたことはありませんか。もしもあなたがこんな目にあっていたらそれは「いじめ」です。私はこんな友達との関係、言葉の重さをテーマにしました。

「またあの子、宿題忘れてる。」みんなが小さな声でボソボソと言っているところを見たことがあります。でもその子が宿題を忘れてしまうのは、なにか理由があるのかもしれませんが。もしも、自分のことをコソコソと話していたら、いやな気持ちになると思います。でも、自分さえ良ければいいという考えや、ストレスの発散、もしくは悪口だと思わずに、言ってしまう人がほとんどだと思います。さらに、かげで悪口を言われるのも、ものすごく辛いですが、目の前で「死ね。」や「消えろ。」と短い言葉だったとしても、言った人がふざけていたとしても、本人は深く傷ついてしまうことを、忘れてはなりません。

そんなときに大切なのは、友達です。友達は、悩みを話したり、毎日楽しく過ごしたりするうえでとても大切な存在だと思います。でも、友達を作ることが得意ではない人も多いと思います。勇気をふりしぼ

って話しかけたいけど、「避けられたら…」や「また悪口を言われたらどうしよう」と思ってしまうかもしれません。けれど心配しなくてもクラスには、優しく自分を受け入れてくれる仲間が絶対にいます。そんな友達を見つけることが、いじめにあわないための第一歩です。難しくて、あきらめかけたときには、先生や親に相談するのもひとつの勇気です。そのような人が一日に一人でもいいから増え、みんなが笑顔になる世界への一歩へつながる事を願っています。私も、友達を見捨てず、これからの未来へと進んでいきたいです。

「書き込む前に考えよう」

6-3 上村 晴

最近、ネット上に悪口を書かれ、自殺してしまった人がいると聞きました。

インターネットの掲示板やブログは、設定すれば自分の本名を出さないようにすることもできます。悪口を言っても、誰が書いたかわからないから別に大丈夫と思い、軽い気持ちで人の悪口を書いてしまう人が増えてきているのです。

しかし、悪口を書くのは、その悪口を書かれた人の人権を侵害していることになります。たとえ書きこみが匿名でも、悪口を書かれた人は、誰が書いたかは関係なく傷ついて、心の傷が癒えなければ、このように自殺をしてしまうこともあります。

ネット上では、相手の顔が見えません。そのため、深く考えずに投稿をしてしまう人が多いのです。しかし、画面の向こうには人がいます。この文章は誰かが見たときに傷ついてしまわないか、人権を侵害していないかなどを考えて、一度踏みとどまってから投稿をすることが大切だと思います。

LINEのグループでもそれは起こります。数人で一人に悪口を言ったり、グループの仲間はずれにしたりすることも、いじめや人権侵害につながります。それが他人であっても、友達であっても、悪口を書きこむことは絶対に許されないことと思います。

ネット上に書きこみをするときは、一旦落ち着いて、その文を見直し、だれかを悲しませないか、見た人が傷つかないかなど、よく考えてから投稿することが大切です。みなさんがどんな場でも思いやりの心を持ち、人権を大切にしていけるよう、これからも声をかけていきたいと思います。

「本当の優しさと勇気の「心」」

6-3 椎野 海羽

あなたは、いじめについてどう考えますか。私は道徳の授業で「いじめ」の辛さを知り、いじめられている人の心によりそえる解決策を考えるためにこのテーマを選びました。

人権とは個人を尊重し、互いを思いやる心のことです。しかし、いじめによって苦しい思いをしている人は世界にたくさんいます。そしていじめは増え続けています。私も、小学一年生のときに、学童で上級生から嫌がらせを受けていたことがありました。その時は父や母、学童の先生に相談する勇気もなくて、つらい思いをしていました。

しかし、「大丈夫。気にしなくてもいいよ。」と私の心によりそって、はげましてくれる人もいました。その人には、本当に感謝しています。

いじめは、人の心に大きな傷をつけます。そしていじめの被害者は一生その傷を負って生きていかなければなりません。その人は悪くないのに、なぜ辛い思いをして生きていかなければならないのでしょうか。また、軽いいじめやちょっとした嫌がらせでも、いじめであることに変わりはなく、小さなことでも心には大きな傷をつけてしまいます。そのことをどうか世界中の人が忘れないでいてほしいです。私はそのことに気付く人が一人でも増えることを願い続けます。

私がもしいじめを発見したら、たとえ自分が苦しい思いをしても、いじめられてしまった側の心によりそってあげられる人になりたいです。それが今の私にできることだと思います。いじめを止めるには、もしかしたら自分が逆にいじめられるかもしれませんが、しかし、それでも覚悟をして、いじめをなくしたいです。それが本当の優しさであり、勇気ではないでしょうか。世界中の人々が、勇気と優しさの心を大切にできるよう、私も本当の優しさと勇気を持って行動していきます。